

# LAPPY

②

ラッピーニュース



LAPPY NEWS  
August 24

THE 17TH INTERNATIONAL ANIMATION FESTIVAL HIROSHIMA 2018  
第17回 広島国際アニメーションフェスティバル

アニメーションフェスティバル

Daily Bulletin

## 地元の学生と共に ヒロシマ巡り！

### “Hiroshima Tour” with students from Yasuda Women’s University!



### 「平和」について触れる貴重な機会 It was a great opportunity to feel “Peace” in Hiroshima.

昨日、広島国際アニメーションフェスティバルの参加者が安田女子大学の学生と一緒に「平和記念公園ツアー」に参加しました。学生たちによるボランティアガイドのもと、JMS アステールプラザを出発し、原爆ドーム、爆心地、記念碑などを巡りました。台風の接近による風の強い中でしたが、平和に関する様々な歴史的な場所を見

て回ることができました。参加者のひとは、原爆は学校で学んでいた以上に恐ろしいものであったことを学んだと話していました。また、ガイドを担当した学生も、英語で説明するのは難しかったが今後への良い経験になったと話しており、双方にとって大きな学びと良い経験を得る非常にいい機会だったようです。

Yesterday, some participants of the International Animation Festival Hiroshima had the opportunity to go on the “Guided Tour of the Peace Memorial Park” with students from Yasuda Women’s University. Student volunteers guided the participants. They departed from JMS Aster Plaza and the tour stopped by the A-Bomb Dome, Ground Zero and some other monuments. Although the wind was blowing hard due to the typhoon, the group was able to tour many

historical places around the Peace Memorial Park. One of the participants said “Although I learned about the A-Bomb when I was a student, I found it more horrible than I thought.” Besides, one of the students said “It was difficult for me to explain the story of Hiroshima in English but it was worth experiencing it for the future.” So, it was a great opportunity for both the participants and the students to learn a lot through the experience.



## 国際名誉会長・国際審査委員長記者会見 Press Conference with the International Honorary President and the International Jury



国際名誉会長  
クリ ヨウジ

International Honorary President  
Yoji Kuri

映画祭には第1回から来ているので、皆勤賞です。思えば、広島に映像文化をと広島市長に話しに行ったとき、市長はアニメーションが分からなかった。それで私の作品でテレビ番組「11PM」のお色気フィルムを見せたら、これは面白いと賛同してもらい映画祭ができた。誰も知らない話ですよ。

今年で17回を迎え、多くの作品が集まりうれしい。コンペに日本の作品が少なかったのは残念ですが、外国の作品は日本の作家たちにも勉強になると思います。

90歳の私に製作依頼がくるが、アニメーションは若い人たちがでないだめだから、どんどん作ってもらいたい。

今日(24日15:00~)の短編作品特集「上映とトーク」には、全作品約700本の中からフィルム作品15本の駄作を出しました。人が傑作と思うのは、私には駄作なのでね。(笑)

I have been participating in this Festival ever since the beginning, enough to receive a prize for perfect attendance. Looking back at the first time when I went to meet with the mayor of Hiroshima to make a proposal for holding a festival of a visual nature, the mayor did not know what animation was. After watching my film for a television program, "11 PM", the mayor expressed an interest, and agreed to help hold an animation festival in Hiroshima. That is how the Hiroshima International Animation Festival was born. No one knows about that story.

This year, I am quite glad to receive so many submissions to this 17th festival. Unfortunately, less Japanese animators' works were selected for the competition than usual, but Japanese creators can still learn by watching foreign films, I think. I, a 90-year-old creator, still receive many requests for creating works, but animation is for young people. I do expect them to create many more works.

For the Retrospective, Screening and Talk to be held today (August 24, 15:00-), I have submitted 15 "poor" films out of the total of my 700 works. That's because I don't consider the works, regarded as masterpieces by others as my best work.



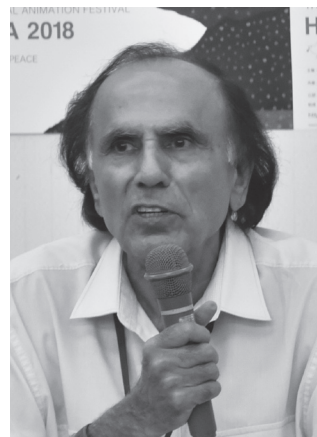
国際審査委員長  
丸山 正雄

International Jury  
Masao Maruyama

1981年、『はだしのゲン』の制作に携わった際から広島に何回も訪ねています。しかし、今回のフェスティバルには違った印象を受けました。日本アニメーション業界で活躍されてきた方々のDNAを引き継ぐという気持ちで審査していきたいと思っております。また、今回の審査では、フェスティバルのテーマである"Love & Peace"に作品に沿っているかというところを重要視したいと思っております。

I have been visiting Hiroshima many times since 1981 to participate in making "Barefoot Gen". However, I felt a different atmosphere at this festival.

I would like the judges to inherit somehow the DNA of those who have succeeded in the world of Japanese animation. Additionally, I expect the films to go along with the festival theme of "Love & Peace".



国際審査委員  
イシュ パテル

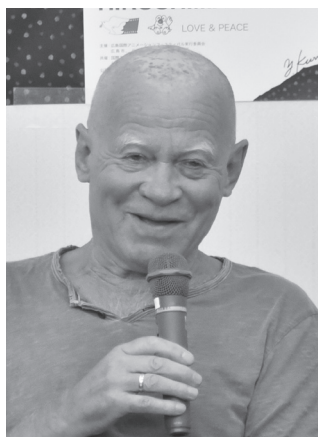
International Jury Member  
Ishu Patel

広島に来ることができ、嬉しく思います。第1回の映画祭にも参加しました。あれから34年経ちましたが、まだ意欲に満ちており、あの時と同じようにこうしてクリヨウジ氏と席を並べて一緒に参加出来ることを大変嬉しく思っています。私は日本とは大変繋がりが深く、これまでに色々な機会でも度々日本を訪れています。この映画祭以外では、NHKと共同でドキュメンタリー制作した際や、数年前にもENEOSのコマーシャル制作の際に来日しました。今年の3月には東京藝術大学と共に学生作品の評価をする為にも訪れています。

また、この映画祭が終わった後もこのまま残り、映像制作以外に私が熱中する写真を撮る為に数日滞在する予定にしています。私はどの国を訪れる際も、街を歩いてその国の鼓動を感じ、興味深い場面を発見しては、異なる視点から観察して写真に収めるという事を行っています。今回もこの機会に写真を撮ることを楽しみにしています。

It's my pleasure to come to Hiroshima. I remember I attended the first festival. Although 34 years have passed since then, I'm very glad to participate in the festival again, still having a good mind, and to sit together with Mr. Yoji Kuri just like we did 34 years ago. I have a good connection with Japan as I have visited many times on many occasions. Besides from this film festival, I came to Japan to work with NHK to make a documentary film, and to make a commercial for ENEOS. This march, I also came to examine students' work with Tokyo University of the Arts.

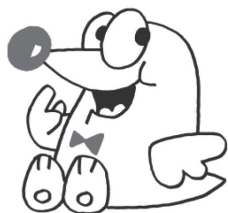
I'm going to stay in Hiroshima a few days more after the festival, and walk around the city to take some photographs, which is my passion besides filmmaking. Wherever I go, I always take the opportunity of visiting the place and checking the pulse of the country. I also try to find some interesting situations, observe them with a different point of view, and take photographs. I'm looking forward to do that with this opportunity as well.



**国際審査委員**  
**プリート パルン**  
International Jury Member  
**Priit Pärn**

私がこのフェスティバルに審査員として参加するのは、初めてです。私は今まで50回以上アニメーションフェスティバルの審査員をして参りました。大変素晴らしい任務で深く感謝申し上げます。さらに今回、私のみならず様々なエストニアの特集を行っていただけることに深く御礼を申し上げます。この審査は、スポーツの賞と場合が違います。スポーツの世界では、数字が出て記録が出来て勝者を決められますが、芸術や映像の世界では選出するのは非常に難しいことです。簡単な仕事ではありません。これから5人で審査をしていく訳ですが、この賞を選ぶことに関して、特にショートフィルムにおいては大変名誉なことだと思います。ありがとうございます！

It is the very first time for me to participate in this festival as a jury member. I have been a jury member of more than 50 animation festivals so far. I would like to express my deep appreciation for this wonderful mission. In addition, I'd like to express my deepest gratitude for not only myself but also various Estonian special features this time. Art is not sport. This competition is different from sports awards. In the world of sport, it's easy to decide a clear winner but it is very difficult to select one in the world of art and films. It is not a easy job. Now we five jury members are judging, but I think that it is very honorable for me to choose these prizes, especially for short film. Thank you!



**国際審査委員**  
**オクサナ チェルカソワ**  
International Jury Member  
**Oxana Cherkasova**

今回ご招待いただきましたこと感謝申し上げます。本当にありがとうございます。この広島で2回、賞を受けることが出来まして、今回は私自身が審査員であることに恐縮致しております。

ロシアでは、この日本のアニメーション・フェスティバルというのは大変知名度が高く、どういった方が賞を獲ったかということは非常に広く知られていますし、皆、それを知りたがっています。それは、このように幅広いアニメを見せていただけるアニメーション・フェスティバルというのは数少ないからでしょうし、作品の質、そしてこのフェスティバルの企画運営が非常に良いということに私も気づきました。いつもそうであるように、今回のフェスティバルも非常に成功に行われることを期待しております。

I am very pleased to have been selected as a jury member this time. Thank you very much.

I was able to get two awards here at the Hiroshima Animation Festival in the past, and I have to admit that I am a little nervous to be a jury member this time.

Actually in Russia, this Japanese animation

festival is very popular and everybody knows about it. Also, so many people are very interested in who wins the award. Because it is a rare festival with a wide variety of animation, I've realized that the organization of this festival is very great. I also expect as usual that this year's festival will be triumphant, and we will have great success.



**国際審査委員**  
**イザベル ファヴェ**  
International Jury Member  
**Isabelle Favez**

広島国際アニメーションフェスティバルに戻ってくることができてとてもうれしく思っています。

そして、私自身の作品を上映していただけることはとてもラッキーなことです。審査員として小夜子さんにご招待いただき、たいへん光栄です。またとない経験をとっても楽しみにしています。

Hello! I am glad to be back in Hiroshima and also very lucky to present my films.

I am also honored to be invited by Sayoko as a member of the jury, and I am really looking forward to the experience.

# 長編への挑戦

スタジオジブリのはげまし

## To the challenge of creating a feature film

Encouraged by Studio Ghibli

マイケル デュドク ドウ ヴィット監督作品(上映とトーク)に際して、日本のアニメーションとのかかわりや長編作品への取り組みについてインタビューしました。

We interviewed Michael Dudok de Wit at Screening and Speech regarding his connection with Japanese animation, and the challenges of creating a feature film.



今回上映する3作品はどれも特別です。『お坊さんと魚』は初公開が1996年の広島アニメーションフェスティバルで、とても大きな賞(ヒロシマ賞)をいただきました。『父と娘』もそうです。両作品が日本で受け入れられとても嬉しかったです。初来日は2004年の広島アニメーションフェスティバルで審査員をした時です。私はこの2作品は日本で上映したいと強く願っていました。なぜなら私は長年、日本のアートを愛していたからです。『父と娘』は私の娘が4歳の時に制作しました。これは偶然ではありません。誰もが子ども目線で親というものがどういうものかは知っています。私自身も子どもだったので、それは分かっていますし、両親は私をいつも気にかけてくれていました。しかし、自分の子どもを持つことは魔法のような出来事です。そのことがこの作品に影響を与えたことは確かです。私はこのおとぎ話のように作られたストーリーを4歳の娘に読んで聞かせました。

『レッドタートル ある島の物語』はもちろん日本と深い関わりがあります。なぜなら多くの時間をスタジオジブリの高畑勲氏や鈴木敏夫氏と過ごしたからです。彼らはプロデューサーであると共にこの作品の原点でもあります。彼らが「マイケル、もし興味があれば長編を作ってみないか」と私を誘ってくれました。そして全てが始まったのです。そして同時に彼らは私に自由に制作させてくれました。それがスタジオジブリのやり方なのです。監督が全てを決めます。アメリカではプロデューサーがアートの質についてなど、より多くのことについて決定権があり、それで成り立っています。この作品は日本の作品とは言えませんが、そう

いう意味では日本の影響を受けています。私は日本の真似をしようとしませんでしたし、スタジオジブリも「ジブリらしいものを作れ」とは言いませんでした。ヨーロッパの人が作る作品でいいのです。この作品には日本人のアーティストは関わっておらず、ヨーロッパのアーティストのみです。日本人はプロデューサーだけです。

短編アニメーションと長編アニメーションではたくさんの違いがあります。大きな違いは、短編の場合、ストーリーがそれほど魅力的でなくとも面白ければ観客は許してくれます。なぜなら数分のことだからです。しかし長編となると、ストーリーが弱ければ観客は怒ってしまうか、帰ってしまうでしょう。ですから、私は長編を作る際には、観客が楽しめるようなストーリーを作ることに、かなり気を使います。二つ目の違いは、もちろん作業量です。(長編では)より多くの人の協力が必要です。短編であれば、私の作業を手伝ってくれるのは1人や2人で、ほとんどが自分一人での作業になります。しかし、長編ではそうはいきません。『レッドタートル ある島の物語』では、20~30人のアニメーターに手伝ってもらいましたが、これは私にとって難しいことではありませんでした。なぜならアニメーターを探すことに多くの時間を割いたからです。彼らはヨーロッパの出身で、特にフランス出身が多かったです。この作品は、アニメーション化が簡単な作品ではありません。なぜなら、より現実的な動きを表現していて、多くのアニメーターはそのようなスタイルを好みません。ですから、とてもゆっくりと数年かけて、スタジオジブリには伝えていませんでしたが、友人に「誰か良い人いない？」と声をかけ、その友人がさらに友人に声

をかけてくれました。そして、とても時間はかかりましたが、ポートフォリオやウェブサイトを送ってもらい、最高のアニメーター達を選びました。さらに、技術だけでなく、この作品を喜んで制作するであろう人を選びました。いくら技術が高くても、いつも不機嫌な人は選ばせませんでした。感じの良い人が良いのは当然ですが、チームとなれば、良い環境や協力と尊重の雰囲気が必要です。『レッドタートル ある島の物語』は自然環境についての物語ですが、私は人々に自分達がどれほど自然を愛しているかを思い出してほしいのです。人間は自然を愛しているものです。肌を感じる温度や裸足の感覚、、、どれほど深く自然を愛しているか感じてもらいたいです。今、私たちは他の何よりも自然を尊敬する必要があります。夜空や虫達の美しさを。もし、気に入る作品があればまた長編を作りたいです。誰かが本や台本を持ってきてくれたら。しかし、私が本当に惚れ込んだストーリーでなければ作りたくはありません。それまで長編は作らないでしょう。

All three films screening in this festival are special.

“The short “The Monk and the Fish” was first shown in the Hiroshima Festival in 1996, and won the HIROSHIMA Prize, as did “Father and Daughter”. I was really happy that both films were accepted. I arrived in Japan for the first time as a member of the Jury of HIROSHIMA 2004. I really wanted both my films to be seen in Japan, because I have admired Japanese art for many years.

“I made the animation “Father and Daughter” when my daughter was about

four years old. It was not a coincidence. Everyone knows what it is like to have a parent from the perspective of a child. It was easy because I have been a child myself, and my parents didn't leave me during my childhood. But to have a child yourself is magical, so I think it must have influenced my film. I told her the story when she was about four years old, but also that it was an invented story, like a fairytale.”

“The Red Turtle” has a special relationship with Japan, because I spent many hours talking with Isao Takahata and Toshio Suzuki in Studio Ghibli. They are not only producers, but they are like the genesis, the start of the film. They told me “Michael, we would like you to make a long film you are interested in.” So, we started. At the same time, they left me be free, because that is how they work in Studio Ghibli. When you have a director, the director has to decide. In America, producers decide about the artistic qualities much more, and it works for the Americans. This film is not Japanese, but is subtly influenced by Japan. I didn't try to imitate Japan, and Studio Ghibli never told me to make it look like Ghibli. It was always supposed to be a film made by a European. There were no Japanese artists working on the film, only European artists. The producer is Japanese, but that's it.

There are so many differences between short animation and feature animation. The big one is if you make a short film, and the film is interesting but the story is not, the audience

forgive you because it's only a few minutes. But if you make a long film and the story is weak, the audience will get angry or walk out. So with the long film, I was much more worried that the audience would enjoy the story. The second is of course the volume of work. You have to rely on collaborators much more. For a short film, I would have one or two artists helping me and for a long period work alone. But with a feature film, it's not. With "The Red Turtle", I worked with 20 to 30 animators, which was not difficult because we had a plenty of time to look for them. Animators from Europe, especially France. This was not an easy film to animate, because it's realistic in movement and many animators prefer not to do that style. So very slowly, and very quietly over the years, without mentioning Studio Ghibli, we just said to friends, "Do you know anyone suitable?" and then friends would tell friends, and so very slowly people would send me and the studio their portfolios, and websites, and we would select the best animators. Also we chose animators who were good, but who would be a pleasure to work with. If there was a very good animator, but he was always angry, we would decide not to invite him. We all like people who are pleasant, but in a team there has to be a nice ambience, an atmosphere of cooperation and respect."

"The animation "The Red Turtle" is about the environment, and I want people to remember why they love nature so much. We do love nature. The temperature on our skin, walking barefoot, etc. I hope people remember how deeply they love nature. We need to respect nature more than anything now. The beauty of the night sky, and of the insects."

"If it is a story I adore, I would definitely like to make another feature length. Some people have shown me books and scripts, but I only want to tell a story that I really fall in love with. So, until then no feature film."



**Q: 今回展示されているストーリーボードの原画は思ったよりも小さくて驚きました。これはアニメーションを作る時にはよく使われるサイズなのですか？**

昔は小さなものがよく使われていました。それらを壁に貼り付けると、ストーリー全体が見えるのです。しかし、今は全てをコンピューターでするようになったので、(サイズは)あまり大きな問題ではなくなりました。

私はまず小さなものから描き始め、もっと細かいところまで描きたいほど夢中になったら、より大きなものを描きます。大きい方が変化をつけやすいのです。また、私はキャラクターと背景は別々に描き、最後にPhotoshopを使って全てを組み合わせます。小さなものでは一つの絵に全てを描きます。

**Q: ドキュメンタリー『The Longing of Michael Dudok de Wit』は、長編のアニメーション作家にとってはとても興味深いものですね。**

このドキュメンタリーは真実を捉えていて、とてもよくできていると思います。私たちは『レッドタートル ある島の物語』の制作に一生懸命に無言で作業し、困難もありました。このドキュメンタリーはそのありのままを映しています。私が困難に立ち向かっている時に、3人もの人が私を撮影しているというのは、大変でしたけど。しかし彼らはとても良い人達で、私が(撮影を)許可していたわけですから、彼らが悪いわけではありません。(制作中に)妨げが入るといのは大変だということがよく分かりました。

## マイケル デドク ドゥ ヴィット展 インタビュー Interview about the Michael Dudok de Wit Exhibition



**Q: 若い作家へのメッセージをお願いします。**

これは言うまでもありませんが、多くの尊敬する作家達ほど面白く人生を送っていると思います。彼らは旅行し、仕事をし、困難も経験し、そして幸せです。学生と接していて感じるのは、彼らはまだ未熟だということです。まだ若く経験も少ない。学生のみなさんへの私のアドバイスは、普遍的な人生への好奇心を自分の芸術と結合させるといことです。

**Q: I visited the "Michael Dudok de Wit Exhibition" and was surprised that the storyboards are much smaller than I expected. Are they the normal size for making animation?**

"It was common to do smaller drawings in the old days, and to put them all up on the wall, so you could see the whole story. But now everything goes on a computer, so it doesn't really matter.

I started out by doing small drawings, but it drove me mad because I wanted to draw detail, so I decided to switch to larger drawings. It is easier to make changes. I also drew the landscapes separately from the characters, finally combining everything

using Photoshop. With a small drawing, I would draw everything in one picture."

**Q: The documentary film "The Longing of Michael Dudok de Wit" is very interesting for feature animators.**

"I think the documentary is quite good, because it's very honest. We were working very hard, it was quiet, and there were some difficulties. So the documentary is just like it was. For me it was difficult because I would be trying to solve a problem, and there would be three people standing there filming me. They were very nice, and I had given my permission, so it was not their fault. I found it very difficult because it was disturbing."

**Q: What is your message for young filmmakers?**

"A message for young film makers. It's very obvious, but I noticed many film makers that I admire, are people who have had very interesting lives. They have travelled, worked, suffered, been happy. Something I notice with students, is that they are not mature yet. They have not lived enough. So my advice to students is to combine your art with your curiosity about life in general"

展示会場では毎日、13時と15時からドキュメンタリー『The Longing of Michael Dudok de Wit』(55分)を上映します。お見逃しなく!

A documentary of "The Longing of Michael Dudok de Wit", (55 minutes), will be screened at the exhibition space at 13:00 and 15:00 every day. Don't miss it!

# 世界の学生作品視聴コーナーから 新しい才能を発掘してください!!

## Please discover new talent from the Screening Corner of the Students' Works of the World.



今大会より、エデュケーショナル・フィルム・マーケットの学生作品視聴コーナーのシステムが、一新されたと聞き、開発者であり、プロジェクトチームの佐藤 皇太郎さんにインタビューしました!!



I heard that the system of the Screening Corner of the Students' Works of the World was redesigned from this event. We interviewed Mr. Sato, developer, and member of the project team!



### 佐藤 皇太郎

アニメーション作家 ASIFA 日本支部会員  
関東学院大学 / 東京造形大学 非常勤講師

エデュケーショナル・フィルム・マーケットの学生作品視聴コーナーは、世界中の学生から広島に寄せられた作品を自由に視聴することができる場です。今年国内外あわせて、1,077 作品が本コーナーにエントリーされています。

HIROSHIMA 2016 まではメディアが DVD でしたので、1 作品借りるごとに申請書が必要でした。今大会ではほぼ全ての作品がストリーミングになったので、パソコン上でスチル付きの作品リストから、好きな作品をクリックするだけで再生できるようになり、利便性が大幅に向上しました。

特に外国の最新の作品は、ストリーミングであってもパスワードを要求していることが多いの

ですが、本視聴コーナーではスタッフが入力してくれるので問題ありません。

質的にも量的にも、世界の最先端の学生作品をここまで自由に観ることができるのは、ここ広島だけではないでしょうか。

本視聴システムの特徴として、お客様がご覧になった作品の情報を、クラウド技術を用いて事務局側でも共有できるようになっていますので、作者へのフィードバックに生かすことができます。

ここは、新しい才能を発掘し、「求める側」と「求められる側」をつなぐ場でもあります。ぜひ、プロの方々にもご覧いただき、ダイヤモンドの原石を探して下さい。フェスティバル事務局が仲介いたします。

### Kotaro Sato

Animation Director, Member of ASIFA-Japan, Lecturer at Kanto Gakuin University and Tokyo Zokei University

The Screening Corner of the Students' Works of the World at the Educational Film Market is a place where the work of students from all over the world can be viewed freely in Hiroshima.

This year, 1,077 domestic and foreign works were entered in this corner.

Up to Hiroshima 2016, because the media was a DVD, an application was necessary every time one DVD was borrowed.

Almost every work has been streamed at this event, so it has become possible to play them by simply clicking on a chosen work from the list on a personal computer. It has become much more convenient.

Especially the latest works from foreign countries often require passwords even for streaming,

but since the staff will enter them at the screening corner, there is no problem.

Hiroshima is therefore perhaps the only place where you can so freely see the world's most advanced student work in terms of both quantity and quality.

As a feature of this screening system, the information on the work you viewed can be shared by the staff using cloud technology. It can also be used to give feedback to the creator. It is also a place to discover new talent, and to connect people providing services with those who request them.

For professional people this is definitely the place to find gemstones amongst the work of the students. The festival staff will, by all means mediate.

ウェルカムパーティー

# Welcome Party



本日のスケジュール

- 11:00 世界の学生作品上映 (中国1)
- 12:00 世界の学生作品上映 (中国2)
- 14:00 中学生向け各校プレゼンテーションタイム

Today's Schedule

- 11:00 Global Students' Work from China 1
- 12:00 Global Students' Work from China 2
- 14:00 Presentation for Junior High Schoolers

Frame in information

本日のスケジュール

- 12:30 『Sleeping Sheep』, 『オートバイの物語』, 『ライオンの旅』
- 13:00 『バス停』 / 後藤 由香里

Today's Schedule

- 12:30 "Sleeping Sheep", "Story of a Motorbike", "A Lion's Journey"
- 13:00 "Bus stop" / Yukari Goto

本日のスケジュール

- 11:00 ANIME-ASEAN+FOGHORN / 土居伸彬
- 14:00 『 TRASHY HUMOUR』, 『OWN THE SKY』, 『 PINCHPOT』  
/ GREG HOLFELD
- 14:30 BEAR PARK / KAISA PENTTILÄ
- 15:00 Lukas Gregor
- 16:30 アニメとアニメーションの環境で異なる情報の仕入れ具合 /  
真狩祐志

Today's Schedule

- 11:00 ANIME-ASEAN+FOGHORN / Nobuaki Doi
- 14:00 " TRASHY HUMOUR", "OWN THE SKY", " PINCHPOT" /  
GREG HOLFELD
- 14:30 BEAR PARK / KAISA PENTTILÄ
- 15:00 Lukas Gregor
- 16:30 Purchasing Coudition of Different Information in Anime and  
Animation Environment / Yushi Magari

大会会場には、驚きや感動がいっぱい隠れているよ。もちろんラッピーも!!



From the Editor's Room



2年ぶりにラッピーTシャツを着ました。またブルティン編集部の皆さんにお会いできて嬉しく思います。(ローラ)

It is 2 years since I put on the Lappy T-shirt.

I'm happy to see the Lappy News team members again. (Rola)

映画の監督さんに話を聞く機会などめったにないので、良い経験でした。ありがとうございました。(浜谷)

It is a rare chance for me to make an interview with the director of the film, so this was a good experience. Thank you very much!! (Hamatani)

あっという間にまた次の映画祭! 年々この間隔が縮まっている気がします…。でも2年に1度の周期で会える仲間とまた一緒に働けるのはとても幸せなこと。残りもこの仲間と楽しく過ごしていきたいと思います。(クレ)

The festival has come again, already! I feel that the passing of time is getting faster every year.... But I'm happy to work with my friends, who I see once in two years. I'm going to enjoy the rest of the festival with those precious people until the last moment! (Claire)

顔を合わせるだけで2年の時間を一瞬で飛び越え、意気投合する仲間が待っていることが、この大会の魅力だと思います。少し残念なのは、宮島の花火大会が8月第4土曜日の開催に変更されて、今回は大会期間中の開催になるので日本の素晴らしい花火を見てもらえる機会になると期待していましたが、災害の影響で中止になったことです。ぜひ次の機会の楽しみにしてもらいたいです。(ひらひら)

It is the fascination of this festival, I think, that old friends, who would with a momentary jump over the time of two years just by matching their face, are waiting for me. Meanwhile, it is disappointing that Miyajima's fireworks display that was expected to be held on the fourth Saturday in August, and to be an opportunity to see the wonderful Japanese fireworks, was canceled due to the disaster. I look forward to the next opportunity. (Hirahira)